

CO₂の排出（気候危機：地球の限界が先か、生活転換が先か）

世界気象機関（WMO）は2020年3月10日、昨年の世界の平均気温は産業革命前より1.1度高く、統計開始以来2番目だったという報告書を公表した。1～5位はすべて2015年以降だ。海水温も上昇し、洪水や暴風雨などの災害で2200万人の避難民が発生していると警告した。

気候危機の主な原因は私たちが出す温室効果ガスで、二酸化炭素（CO₂）が4分の3を占める。大気中のCO₂濃度は産業革命前の約1.5倍に達し、最高値を更新している。国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が18年に公表した1.5度特別報告書によると、気温上昇を1.5度未満にとどめるためには、今後のCO₂排出を4200億トン未満にする必要がある。今のペースだと8年分しかない計算になる。

CO₂の排出量が2兆6200億トンに達すると（気温が産業革命前より1.5度上昇）



- ・グリーンランドの氷床の減少・・海水面の上昇、島国の沈没、高波、洪水被害
 - ・シベリアの永久凍土の融解・・凍土中にあったCO₂の排出
 - ・北米・オーストラリア等の森林火災の増加・・CO₂の増加
 - ・アマゾン熱帯雨林の減少（火災）・・CO₂の増加、陸上生物多様性の喪失
 - ・珊瑚の大規模白化・・海洋生物多様性の喪失、CO₂の増加
- などが連鎖的に起こり、温暖化に歯止めがきかなくなる恐れがある。

プラネタリーバウンダリー（地球の限界）
 地球上で人間が安全に生存できる限界に近づきつつある。
 今、変革しなければ将来の地球はない。ヨハン・ロックストローム



この問題への対処

日本は中国、米国などに次ぐ世界5位のCO ₂ 排出国だ。地球環境戦略研究機関によると、日本の温室効果ガスの排出量の6割上は生活関連が占める。一人当たりだと排出量がCO ₂ 換算で年7.6トン。住まい、移動、食に関するものが多い。	
食	食に関する排出のうち4分の1を占めるのは肉類・。家畜には大量の飼料や水が必要で、牛のゲップには温室効果の高いメタンも含まれる。環境負荷を減らす手立てとして「培養肉」（細胞培養）や「代替肉」（大豆等）も登場している。
住	パッシブハウス（ドイツで生まれた高性能住宅で冷暖房器具がほぼいらぬ究極の省エネ住宅。屋根の太陽光発電で電気の大半を自給可能）が登場
移動	マイクロモビリティ（小型で小回りがきき、環境性能に優れ、地域の手軽な足となる1～2人乗り程度の車両。超小型自動車、シニアカー、電動キックボード）の登場やそのシェアリングサービスも生まれている。